

AWC日本連通信

日米のアジア支配に反対し、アジア民衆の連帯を推進する日本連絡会議

第2号

2016年7月24日

カンパ50円

<http://www.awcjapan.org>



■5月～6月のたたかい

私たち、アジア共同行動は、5月21日には関西で、22日には東京で、伊勢志摩サミットに反対する仲間とともに抗議の声をあげ、5月26日27日と伊勢志摩で開催されたG7サミット首脳会合に対しては、韓国とフィリピンの仲間とともに国際共同闘争でたたかいました。大阪府警は、仲間3名を5月19日に逮捕し、伊勢志摩サミット反対闘争に対する予防弾圧をしかけてきましたが、逮捕された仲間とともに果敢に伊勢志摩現地闘争をたたかいました。続いて、6月5日には、京丹後現地で米軍Xバンドレーダー基地反対闘争に立ち上がりました。5月2日の全国十数か所への強制捜査とこれに続いた5・19弾圧は、サミット反対闘争への予防弾圧であるとともに、米軍Xバンドレーダー基地反対闘争に対する弾圧でもありました。大阪府警の弾圧をはねのけて、伊勢志摩サミット反対闘争から米軍Xバンドレーダー基地反対闘争を連続してたたかいました。6月10日には、首都圏で韓国の仲間を招いたアジア共同行動・首都圏集会を開催し、11日には、韓国の仲間が参加した「戦争法廃止！安倍たおせ！反戦実行委員会」の集会に結集し、6月26日には、アジア共同行動九州・山口の総会を開催しています。さらに、6月19日、元海兵隊員による女性殺害に抗議する沖縄の県民大会、これに連帯する「本土」各地での集会に全国でたちあがりしました。また、前後して、6月10日には、関西で、岩国行動2016のスタート集会が16岩国・労働者反戦交流集会実行委員会の主催で開催され、アジア共同行動もともに参加し、岩国行動2016の成功を誓いました。

■参議院選挙の評価と今夏のたたかい

さて、7月10日、参議院選挙で、自民、公明、お

さか維新の会、日本のここを大切にする党による改憲勢力が、3分の2の議席を確保することになってしまいました。しかし、沖縄では、安倍政権の閣僚である島尻沖縄・北方担当相を破って伊波候補が勝利し、福島でも岩城法相を落選させました。東北各県では、秋田を除くすべてで野党候補がおしなべて勝利しました。辺野古新基地、原発、TPPをめぐる激烈なたたかいとなったところでは、すべて自公勢力が敗北しているのです。わたしたち、アジア共同行動も、沖縄の伊波候補の勝利と、山口の頼み候補の勝利のために全力で奮闘しました。安倍の地元である山口では、頼み候補の勝利はとどきませんでした。頼み候補に入れられた18万以上の票が、これからのたたかいの大きな橋頭堡となるでしょう。わたしたちは、あくまでも民衆の大衆行動こそがすべてを決する原動力だと思っています。こうした民衆のたたかいと固く結合した候補者を支持してたたかいました。このたたかいをひきつぎ、安倍政権による憲法改悪攻撃と全面対決するたたかいの準備にはいりましょう。安倍政権は、緊急事態条項の新設などから始め、九条改悪へと進むつもりです。緊急事態条項とは、戦時の戒厳令を憲法で新設することに他なりません。安倍政権の辺野古新基地建設、岩国基地大強化、戦争法、憲法改悪を許さず、たたかいを全国で強化しましょう。8月6日広島には、韓国から若者達が参加します。被爆二世の会などが中心となって日韓共同闘争として準備される8・6広島闘争に結集しましょう。8月15日、首相や閣僚、国会議員による靖国参拝を許さないたたかいを。そして、8月21日には第3回岩国国際DAYです。沖縄・辺野古新基地建設阻止、岩国基地大強化反対！アジア太平洋各国地域で、沖縄、日本各地で、岩国国際DAYを成功させましょう。

G7伊勢志摩サミット反対—現地闘争をたたかう！



■5.26津集会を闘い抜く

関西での事前弾圧ともいえる、でっち上げによる3名の逮捕、数十名の私服が会場を取り巻く中、5月26日、G7サミット反対集会在三重県津市のサン・ワーク津で多くの仲間が結集し、開催されました。

集会はG7サミットは帝国主義の談合であり、新自由主義政策と帝国主義侵略を押し進めるものである。このような支配体制サミットと断固闘っていくという基調的提起で集会はじまった。

この基調的提起につづき、三重の現地でこのG7サミット開催に反対している方々の闘いの報告がなされた。

三重での闘いの報告に続き、韓国AWCのホヨング代表のビデオメッセージ、来日した韓国民主労組全解闘の2人からの闘いへの決意表明、G7茨木・つくばサミットを問う会、反戦の会兵庫、5.21関西実行委員会、笹島日雇労組、東京実行委員会より、この間の闘いの報告とG7サミット反対を闘う決意表明がなされた。

集会終了後、サン・ワーク津から、津駅前往復のデモンストレーションで三重県民・津市民にG7サミットの犯罪性を暴露した。

デモ隊列の道路側には警視庁の機動隊、歩道側には地元署の警官や公安に挟まれる中、断固としてデモをやり切り、津市の繁華街にG7サミット反対の声を鳴り響かせました。

デモ終了後、サン・ワーク津で、G7サミット反対に結集した韓国の仲間、在日ミгранテの仲間と、夕食をともにしながら国際交流を行いました。（鴨居共同代表）

■伊勢志摩サミット反対闘争の総括

伊勢志摩サミットに関して、関西ではAWC京都による事前学習会の開催（5/17）、さらに大阪で開催された「伊勢志摩サミットを問う5・21関西集会」（主催・実行委）への参加の上、十数名のメンバーが5・26-27の現地闘争に駆けつけました。

5・21関西集会は、5月19日のAWCメンバーに対する不当弾圧の直後のサミット反対集会となり、主催者の予測を超える結果となり、AWC京都からも不当弾圧を弾劾し、現

地闘争の成功を共に勝ち取る決意を表明しました。

現地闘争については、参加者の数は決して多いとはいえませんが、G7を構成する帝国主義による世界支配、強化される日米軍事同盟と日本の戦争国家化、安倍政権による天皇制強化の策動を鮮明に批判し、伊勢志摩を含み地元三重県の方々の参加も得て、戦争と貧困を拡大するG7サミットに対する断固とした闘争として勝ち取られたと思います。

AWCとしては、2月末の第四回国際総会でG7伊勢志摩サミット反対闘争に立ち上がることを決議しました。東西での前段集会から5月26日の津市内での集会・デモ、27日の伊勢志摩現地での集会・デモに至る取り組みについて、AWC日本連としては以下の諸点を確認できると思います。

第一に、不当弾圧を断固はねのけ、また過剰警備をもものともせず、全国からの結集で伊勢志摩サミット反対の現地闘争をかちとったことです。

第二に、伊勢志摩現地での闘い、および、米大統領オバマの広島訪問に対する抗議という双方の闘いを通して、G7伊勢志摩サミットの総体への闘いを組織したということです。

第三に、韓国の民主労総全解闘の仲間、ミ格蘭テ日本支部のメンバーの現地闘争への参加を勝ち取り、また、海外のAWCの仲間からの国際連帯メッセージを組織することを通して、伊勢志摩サミット反対闘争を反帝国際共同闘争として成功させることに貢献してきたということです。

第四に、伊勢志摩サミット反対闘争をより広く、より多くの団体の共同の取り組みとするために私たちもまた努力してきたということです。

伊勢志摩サミット反対闘争の成果を引き継ぎ、闘いの更なる前進を共にかちとりましょう。



5月AWC沖縄派遣団報告

「復帰」から44年を向かえ、辺野古新基地建設を巡って安倍政権と対峙する沖縄に、今年もAWC派遣団が組織され、現地で沖縄人民とともに闘ってきた。

5月14・15日の日程で、首都圏から3名が派遣団として展開した。14日は、ふた手に別れ、辺野古現地訪問・見学と沖韓民衆連帯の集会にそれぞれ参加した。

辺野古現地は、埋め立て承認の取り消し問題で、沖縄県と政府の「和解」が成立し工事が中断している情勢ではあるが、キャンプシュワブゲート前では、座り込みと抗議集会が継続しており、「辺野古が唯一の解決策」として辺野古新基地建設を強行する姿勢を変えない安倍政権を弾劾していた。派遣団は、座り込み・抗議行動への参加や基地建設の状況などを見学した。

沖韓民衆連帯の集会は、毎年韓国から多くの仲間を迎え闘いの交流を行なっている。今年は、韓国からチェジュ島カンジョン海軍基地建設反対運動はじめ各地から反基地運動に取り組む仲間が参加していた。日本からは、沖縄をはじめ、京丹後Xバンドリーダー基地反対運動、神奈川の反基地運動が参加し、報告を行なった。

15日は、「平和と暮らしを守る県民大会」に全員で

参加した。安倍政権と対峙し、辺野古新基地建設を阻止するオール沖縄体制をより強固にするために、県議会選挙と参議院選挙に勝利する重要性が訴えられていた。

米軍軍属による沖縄女性への性暴力殺害事件が起こり、怒りの沖縄人民の全基地撤去要求が爆発しています。6/19沖縄県民大会では6万5千人の抗議決起。参院選直後の7月11日から、安倍政権は高

江ヘリパット建設工事強行に向け、警察権力を全国動員し反対闘争の弾圧を激しくしています。絶対に許すな！沖縄人民の闘いと連帯し、基地撤去—安保破棄を闘っていきましょう。



**7.22高江の工事再開を糾弾する！
機動隊による住民への暴力を許すな！**

AWC各地域の報告

①九州山口

5・27 オバマ広島訪問に抗議の決起！

5月27日、米帝オバマの広島訪問に対して原爆投下の謝罪と補償を要求して、被爆二世の仲間とともにAWC九州・山口の仲間が抗議の闘いに決起しました。

この日、警察は四千六百名による警備体制で、車両はもちろんのこと平和公園に向かおうとする歩行者にまで検問を実施した。平和記念資料館を含む平和公園への立ち入りは、正午から全面規制され公園周辺は厳戒態勢が敷かれていった。

午後三時には、資料館の前を通る平和大通りの沿道ではフェンスによる規制が開始され、抗議行動の封殺にむけた体制が敷かれていった。自衛隊のヘリが公園の上空を飛び、公園周辺に徐々に集まる市民の中を徘徊する警察の数も増える中、「米政府は、謝罪と補償を行え 日帝の核武装反対」と大書された横断幕を被爆二世の会の旗とともに高く掲げた。



高く掲げられた横断幕を多くの人々が見上げ、その内容を確認しようと駆け寄る被爆二世の方や若者たちがいた。警察との攻防は1

時間以上に及んだが、横断幕を片時も放さず抗議行動を貫徹したのである。

オバマは、広島訪問を前に岩国基地に到着し、米海兵隊と自衛隊を前に演説と激励を行っている。

オバマは17分の演説の冒頭、「死が空から降り、世界が変わってしまった」と述べた。広島にいた人々は死んだのではなく、殺されたのだ。誰によって。まぎれもなく米帝によってである。今回の演説では、謝罪はしない。原爆投下の是非に触れないことが前もって明らかにされていた。そんなことが許されるわけがないのだ。原爆資料館の見学はわずか10分程度でその様子は、報道に公開されることもなかった。被爆者慰霊碑への献花に際してオバマは頭を少し傾けただけであった。謝罪とは受け止められないようにするためだ。アメリカの新聞は、被爆者と抱擁するオバマの写真を1面に掲載し、あたかも被爆者と和解しあえたかのように報道した。オバマの広島滞在は、わずか50分足らずであった。

来年1月に任期の切れるオバマにとって今回の広島訪問は、まさに最後のパフォーマンスであった。われわれは、今回の訪問で原爆投下の責任を曖昧にさせてはならない。

被爆者代表の一人として平和記念公園での式典に出席した日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）事務局長の田中熙巳（てるみ）さんは、朝日新聞のメールアンケートに回答を寄せ、次のように語っている。『核兵器

廃絶を「願う」人には90点でも、核なき世界を「求める」人にとっては具体性が乏しく0点に近い。2009年のプラハ演説より後退している』と。さらに、オバマと被爆者が抱き合う姿に注目が集まり、「あたかも和解が成立したかのように受け取られることに憤りさえ感じる」「原爆を投下したアメリカの責任が免罪されたわけではない」と強調している。

韓国人被爆者をはじめとして全世界の被爆者、二世、三世との連帯を強めよう。

日帝の核武装を絶対に許さず、改憲から自衛隊の海外派兵を目論む安倍政権打倒にむけて闘おう。

②京都

米軍Xバンドレーダー基地撤去！京丹後市は住民の自治と安全・安心を守れ！ 6/5京丹後現地総決起集会の報告（瀧川AWC共同代表）



集会は、基地建設工事の開始から約2年、レーダーの本格稼働から約1年半が経過する中で、現地で頻発している米軍関係者による交通事故問題などに焦点を当てつつ、日韓でのTHAADミサイル配備策動を呼び起こすなど東アジアの軍事緊張を拡大している米軍Xバンドレーダー基地撤去を訴える現地集会として取り组まれました。

参加者は、韓国、沖縄、東京、神奈川、近畿各地から350人が参加しました。参加の特徴は、フォーラム平和・関西ブロックの労働者の組織参加したこと、そして、何よりも地元・宇川をはじめ京丹後からの参加者が増大したことです。

参加者は、韓国、沖縄、東京、神奈川、近畿各地から350人が参加しました。参加の特徴は、フォーラム平和・関西ブロックの労働者の組織参加したこと、そして、何よりも地元・宇川をはじめ京丹後からの参加者が増大したことです。

報告として特筆すべきは以下の3点です。

第一に、今回の集会・デモは、沖縄の山城博治さん、映画「戦場ぬ止み」監督の三上智恵さん、神奈川の基地撤去をめざす県央共闘会議の越川好明さんを迎えて取り组まれました。岩国からは田村順玄市議の連帯メッセージが届きました。集会では、沖縄での米軍属による女性強姦・殺害・死体遺棄事件について全員が怒りを持って抗議し、米軍人・軍属による犯罪・事件・事故をなくすには米軍基地をなくすしかなく、全国の反基地運動の結束をさらに強めていくことが確認されたことです。

第二に、米軍のTHAADミサイルシステムの導入が計画されている韓国から「平和と統一を開く人々」のオ・ヘラソンさんを迎えて、日米韓の軍事一体化と米国の「ミサイル防衛」体制の構築と闘う現場からの日韓民衆連帯が進んだことです。

第三に、米軍Xバンドレーダー基地反対運動に対し、大阪府警公安3課が昨年、今年と不当な弾圧を続けて来ている。この弾圧は運動の萎縮と、分断を狙ったものです。今回の現地総決起集会は、近畿一円のみならず地元・

宇川や京丹後市の方々も多数結集したことによって、彼らのもくろみを許さず成功裏に開催されたことです。

『私たちは、地元の人びととともに主権者として立ち上がり、戦争法を強行制定した安倍政権の「国策」をひっくり返すために闘います。全国の反米軍基地運動との結びつきを広げ、東アジアの民衆の国際連帯の発展を目指します。平和のうちに生きるために、米軍基地はどこにもいません』（集会宣言より抜粋）



③首都圏報告

私たちAWC・首都圏は5月伊勢・志摩サミット反対の闘いを首都圏における大衆的闘いとして、実行委員会が呼びかける5月22日新宿・柏木公園における集会とデモを闘いました。そして26日から27日にかけての現地闘争も、派遣団を組織し全国の仲間とともにサミット粉碎の闘いを貫徹していきました。

6月11日には「戦争法廃止！安倍たおせ！反戦実」が呼びかける国際シンポジウムとデモに参加して共に闘いました。私たち首都圏は韓国からの反基地運動を闘う人々を招く窓口を担当し、集会の成功に向けて奮闘してきました。この集会の前日にはAWC・首都圏主催による「韓国からみた日本の『戦争と平和』」と題する交流会を開催し、韓国一東アジア人民からみた戦争法制と改憲について論議しました。来日した「平和と統一を開く人々（ピョントンサ）」の方は戦争法制や改憲策動について、「東アジア人民は日本が再びアジアを侵略するのではないかと思っています。皆さんは、かつて侵略戦争をした国の人間として日本の戦争策動を阻止しなければなりません」と述べました。私たちAWC・首都圏は、戦争法制や改憲策動を「日本が戦争に巻き込まれる」という主張ではなく、「侵略戦争を許さない」という国際主義の立場を明確にした反戦闘争を闘います。

米軍一軍属による沖縄女性への性暴力殺人事件を絶対に許しません。この問題を米軍の「綱紀粛正」等という小手先の対応で済ませてなりません。沖縄に米軍基地がある限り、米兵による犯罪はなくなる。私たちは「アジアからの米軍総撤収」を掲げ、沖縄一岩国一京丹後一座間一厚木一横田を貫いて米軍再編と闘います。

今年の米軍自衛隊参加の防災訓練は、9月4日に墨田・葛飾で行われようとしています。子どもたちの動員を許してはなりません。地域住民と密着した防災訓練反対を闘います。



フィリピン：新しい政権と新しい闘い



さる5月9日におこなれたフィリピン大統領選で、ミンダナオ・ダバオ市の市長を長く務めてきたロドリゴ・ドゥテルテ氏が圧倒的な票差で当選した。日本のメディア報道だけを見てはよく分からないが、この大統領選挙の結果によって、フィリピンでは今、大きな政治的流動が起こっている。

ドゥテルテ氏は「フィリピン史上初の左派の大統領になる」と発言し、その後の内閣人事ではKMP（農民運動）出身のラファエロ・マリアーノ氏（AWCの国際共同代表だった時期もあった）を農地改革省長官に、フィリピンの女性解放運動の研究で著名なジュディー・タギワロ氏を社会福祉開発省長官に任命した。またKMU（労働運動）出身のジョエル・マルグソッド氏が労働雇用副長官に、ガブリエラ出身のリサ・マサ氏が全国反貧困委員会の委員長に就任している。また、民族民主戦線（NDF）との停戦交渉を公式に再開し、政治犯の釈放についても具体的な検討に入っている。契約雇用（非正規雇用）はなくさねばならない、といった趣旨の発言もしている。

日本のマスメディアは、選挙期間中のドゥテルテ氏の発言の一部をとりあげ、彼を「フィリピンのトランプ」



と描いている。大統領選におけるドゥテルテ氏の圧倒的勝利の背景に、フィリピンの基層民衆のアキノ前政権への不満、変わらない生活苦への不満と怒りがあったことは明らかだ。しかし、少なくともドゥテルテ氏は米国のトランプのように、右翼的・排外主義的な言辞によって、その支持を拡大したわけではない。

もちろん、その人が何を言っているかよりも、実際にどのような政策を採り、どのように行動しているかのほうが重要だ。その意味で、私たちはフィリピンの新政権の動きを注視していかねばならない。

AWCに参加するBAYANなどの民衆団体は、ドゥテルテ政権発足前日の6月29日に「民衆サミット」を開催し、民衆の要求を15項目にまとめた「ピープルズ・アジェンダ」を採択し、大統領就任式の6月30日には大統領府に向けたデモを行った。ドゥテルテ氏はデモ隊のリーダーたちを大統領府内に招き、BAYANのリーダーたちは「ピープルズ・アジェンダ」を新たに大統領に就任したドゥテルテ氏に直接手渡した。

新しい情勢のなかでのフィリピン民衆の解放闘争を注視し、連帯しよう。

米国オバマ大統領広島訪問に対するAWC日本連声明

オバマ大統領が伊勢志摩サミット後、広島市の平和公園や原爆資料館などに立ち寄ろうとしています。アーネスト大統領報道官は記者会見で原爆投下の謝罪ではないこととともに「オバマ大統領は、トルーマン大統領が正当な理由のために決断したと認識している」と述べました。原爆の使用を正当化し謝罪をしないのに何のために広島にくるのでしょうか？

また一部報道では米軍岩国基地から軍用ヘリコプターかオスプレイで広島に入ると言っています。原爆を投下した米軍側の航空機で被爆地を訪れるなど断じて許せません。

米軍は1945年8月6日広島、9日長崎に原爆を投下しました。原爆は性別、年齢、国籍、職業の区別なく被害を与え、1945年末までに14万人の人々が亡くなったと言われています。生き残った被爆者は原爆による後遺症に今も

苦しんでいます。私たちに原爆の恐ろしさを語ってくれる被爆者の方は少数で、多くの被爆者は「あの日のことを思い出したくもない」と家族にさえ語っていません。体と心を傷つけられ、家庭が崩壊してしまった被爆者もいます。原爆に家族や友人・知人を奪われた被爆者もいます。また被爆二世・三世にも原爆被爆の遺伝的影響が及ぶ可能性があります。

原爆は過去のことでありません。原爆の投下は明らかに戦争犯罪です。

昨年朝日新聞社の被爆者のアンケートでは「米国大統領が広島・長崎を訪問すべきか」の問いに、5762人のうち1385人（24・0%）が「訪問すべきだが謝罪は必要ない」と答え、「訪問して謝罪すべきだ」としたのは2500人（43・4%）に上っています。

2009年オバマ大統領はプラハで「核保有国として、核兵器を使用したことがある唯一の核保有国として、米国には行動する道義的責任があります。米国だけではこの活動で成功を収めることはできませんが、その先頭に立つことはできます。」と演説し、ノーベル平和賞を受賞しました。しかし米国はその後も臨界前核実験やZマシンを使った核実験を続けています。核兵器を使用した米国が未だに核兵器を保有し続けることで、核兵器保有国が増え、核兵器を使用しようとする国さえ出てきています。とても米国が核廃絶の先頭に立っているとは言えません。

オバマ大統領は広島に来るなら長崎も訪れるべきだし、韓国人被爆者をはじめ全ての被爆者に謝罪すべきです。核兵器廃絶に必要なことは、まず自国の核兵器を全て廃棄することです。そして核兵器を使用した米国政府が世界中の全被爆者に謝罪し、補償をすることです。

オバマ大統領に安倍総理大臣が同行しようとしています。

3月18日の参院予算委員会で横畠裕介内閣法制局長官は、「憲法上、あらゆる種類の核兵器の使用がおよそ禁止されているというふうには考えていない」と述べました。さらに「核兵器は武器の一種。核兵器に限らず、あらゆる武器の使用は国内法、国際法の許す範囲で使用すべきものと解している」とも述べています。その日の記者会見で菅官房長官は「(核兵器使用は)あり得ない。法制局からは過去の国会答弁を踏まえて答弁したと報告を受けている」と答えました。しかし、安倍総理大臣が官房副長官であった2002年、早稲田大学で「自衛のための必要最小限度を超えない限り、核兵器であると、通常兵器であるとを問わず、これを保有することは、憲法の禁ずるところではない」と述べています。2011年、東京電力福島第一原発が重大事故を起こした後に石破政務調査会長(当時)は、核の潜在的抑止力を持ち続けるためにも、

原発が必要との認識を示しています。

オバマ大統領を広島に来させることによって安倍総理大臣が核廃絶に向け力を尽くしているというパフォーマンスをし、被爆者問題を終結させた上、日本の核武装を目論んでいるのです。また、夏の参議院選挙での勝利に利用し、改憲を狙っているのです。

今も被爆者たちは原爆症の認定基準を改めて欲しいと裁判を起こしています。長崎では政府が被爆者と認めず「被爆体験者」とされた方々が、被爆者と認めて欲しいと裁判を起こしています。広島では黒い雨の被害地域を広げ、被爆者と認めて欲しいと裁判を起こしています。韓国人被爆者を初めとする全ての在外被爆者は裁判を起こさなければ被爆者援護法が全く適用されませんでした。しかも在外被爆者には未だ一部の援護法が適用されていません。その上、朝鮮民主主義人民共和国に住む被爆者には今も被爆者援護法を全く適用させていません。

安倍総理大臣はオバマ大統領と共に核廃絶に全力を尽くしたいというのなら、まず全ての在外被爆者に被爆者援護法を完全適用させ、原爆症を過小評価する認定基準を改め、被爆体験者や黒い雨の被害者を被爆者と認めるべきです。そして、アメリカの核の傘から脱却し、アジアの被爆者に対し、日本の侵略戦争の結果被爆させてしまったことを謝罪し、補償をすることです。

2016年5月18日

アジア共同行動(AWC)日本連絡会議



今後の活動予定

△隣り

■沖縄闘争
★「辺野古新基地建設断念を求める全国交流集会」
日時：7月31日(日) 10時
18時/場所：連合会館・全電通会館ホール(東京)
主催：「止めよう!辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

■反戦運動

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対!」
①学習・討論会
日時：7月30日(土) 18時
/場所：すみだユートリア(東京都墨田区)

★「戦争・治安弾圧・基地に反対する集会」
日時：8月28日18時/場所：池袋・生活産業プラザ(東京) /主催：伊勢空蔵サミットに反対する実行委員会

★岩国国際デー
日時：8月21日(日) 前後
/場所：全国各地

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する荒川・墨田・山谷&足立実行委員会」

★岩国反基地現地行動
日時：12月10日(土) 11日(日) /詳細未定

★「戦争・治安弾圧・基地に反対する集会」
日時：8月28日18時/場所：池袋・生活産業プラザ(東京) /主催：伊勢空蔵サミットに反対する実行委員会

■反原発行動
★みんなで止めよう伊方原発7・24全国集会
日時：7月24日(日) 13時
30分 /【集会】/伊方町九町・伊方ピシターハウス前

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
②韓国労働者大会
日時：11月13日(前後数日間の日程)

■抗議行動 /伊方原発1
ト前/主催：全国集会実行委員会

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★8・6広島青空式典
日時：8月6日(土) 10時
30分/場所：広島原爆ドーム

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
①学習・討論会
日時：7月30日(土) 18時
/場所：すみだユートリア(東京都墨田区)

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
②韓国労働者大会
日時：11月13日(前後数日間の日程)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
①学習・討論会
日時：7月30日(土) 18時
/場所：すみだユートリア(東京都墨田区)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
②韓国労働者大会
日時：11月13日(前後数日間の日程)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
①学習・討論会
日時：7月30日(土) 18時
/場所：すみだユートリア(東京都墨田区)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
②韓国労働者大会
日時：11月13日(前後数日間の日程)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
①学習・討論会
日時：7月30日(土) 18時
/場所：すみだユートリア(東京都墨田区)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
②韓国労働者大会
日時：11月13日(前後数日間の日程)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内

★「9/4米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する」
①学習・討論会
日時：7月30日(土) 18時
/場所：すみだユートリア(東京都墨田区)

★AWC日本連全国会議
日時：8月27日(土) 13時
開始
場所：東京都内